

日本共産党港区議会議員

星野たかし

区政報告

No.81
2002年
4月

発行

日本共産党港区議員団
港区芝公園1-5-25
TEL(3578)2945
FAX(3578)2947

《連絡先》3449-1202(星野自宅)

第1回例会

七名の議員団区民要求実現に奮闘

第一回定例会区議会は、三月七日から二十七日まで開かれました。今議会では二〇〇二年度予算が審議されました。日本共産党港区議員団の七名は、日頃区民のみなさんから寄せられている要求・要望の実に奮闘しました。
星野たかし区議は、予算特別委員会で質問に立ち、経営が困難になっている公衆浴場への支援強化を区に求めました。また予算特別委員会の副委員長として区民要望の実現に奮闘しました。
今議会の主な内容をお知らせします。

「銭湯をこれ以上なくさないで！」

星野たかし区議公衆浴場への区支援強化を求める

区内の公衆浴場が次々に廃業に追い込まれ、現在八軒、三十数年前から比べると十分の一にまで減ってしまいました。白金地域でも今年に入り二軒も減ってしまいました。区民の皆さんから「銭湯がなくなつて困っている」との声が多く寄せられています。港区は公衆浴場への支援策を行っていますが、この間、区民開放の削減、入浴券交付の対象枠の縮小、施設整備補助の削減など、浴場経営への支援を後退させています。千代田区では、一九九四年度以降、四件に減ってしまった公衆浴場を「これ以上減らさないために」と「要綱」を制定し、年間二千二百万円、一浴場当たりで比べると港区の約三・八倍の経営確保予算を組むなど、浴場経営の継続に大きな役割を果たし、区民からも歓迎されています。
星野区議は予算委員会で、地域の公衆衛生、地域コミュニティの向上に大きな役割を果たし、日本文化の代表的な存在である公衆浴場を守るため、「区がこれ以上減らさないという立場に

予算委員会で質問する星野区議

日削減、入浴券交付の対象枠の縮小、施設整備補助の削減など、浴場経営への支援を後退させています。千代田区では、一九九四年度以降、四件に減ってしまった公衆浴場を「これ以上減らさないために」と「要綱」を制定し、年間二千二百万円、一浴場当たりで比べると港区の約三・八倍の経営確保予算を組むなど、浴場経営の継続に大きな役割を果たし、区民からも歓迎されています。

東京湾花火大会 往復ハガキの抽選にもどる

昨年の花火大会は、商店街連合会に費用負担を押しつけたため、区民から「バガキによる抽選にもどして」など二百件を超す苦情が寄せられました。党区議団にも多くの相談がありました。区議団は予算委員会で、「往復ハガキによる抽選にもどすこと。中央区など近隣区と開催・運営の協議を行なうこと。区商連への負担の押しつけはやめること。区内会場警備は区で責任を持ち、仮設トイレを改善すること」などを要求。担当課長は「ハガキによる申込みに改善する。会場の仮設トイレなども改善する」と答えました。

要介護者の程度に応じて障害者控除

介護支援課に控除対象認定書申請書の請求を

障害者手帳を持っていないくても、区長が認めた要介護認定者は、所得税と住民税の障害者控除が受けられることが、日本共産党と住民の運動で明らかになりました。港区でもこれを実行させるための質問を行いました。区は、障害者控除認定に当たり「介護認定が一定の目安になる」「広報などで周知する」と答えるとともに、障害者控除対象認定書が必要な方は、電話でも請求があれば「申請書を送る」と答弁しました。

介護保険の要介護認定者については、必要な調査と情報に基づいて控除の認定書を交付します。これは確定申告の締切りとは関係なくさかのぼって申告できます。

お問合せは... 3578-2945 党区議団へ



なんでも相談

4月25日(木) 5月10日(金) 5月27日(月) 6月10日(月) 6月25日(火) それぞれ午後7時より 白金福祉会館・集会室D(和室) 弁護士・区議が対応致します。 連絡先...星野自宅 3449-1202 区議会控室 3578-2945

普通教室への冷房設置は急務

児童・生徒のガマンも限界で

をしめして早急な設置を要求。さら

都心特有のヒートアイランド現象による暑さは異常です。党区議団は長年、小中学校の普通教室への冷房設置を要求してきました。今議会でもこの問題をとりあげ区に実現を迫りました。現在、港区の普通教室へ

普通教室に冷房のある学校

<小学校>
 *御成門 *白金 *三光
 *港南 *赤坂 *港陽

<中学校>
 *御成門 *港南 *港陽
 *六本木

の冷房設置は、騒音対策として国の補助金の対象となつている六小学校、四中学校だけです。党区議団は予算委員会で、小・中学校長会、幼稚園長会、PTA、教職員組合などから要望があがっていること、千代田区では二十年前に全中学校、六年前に全小学校に、中央区では十八年前に全小中学校に冷房を設置していること、区長も本会議で「教育委員会の検討を踏まえ計画的な整備を」と答弁していること、などに

全小中学校の図書館にスタッフが配置

四月から全小中学校図書館に「リーディングガイドバイザリースタッフ」(読書支援スタッフ)が週二日配置されます。区議団は、子ども達が本格的に本に触れるチャンスである学校図書館に司書を配置するよう要求し、六年からいくつかの学校に補助員が配置されました。今回、すべての小・中学校にスタッフを配置されることは大きな前進です。しかし、司書教諭資格者が配置されるのは六校(四小学校、二中学校)にすぎません。「調べる学習」が重視されており、スタッフが司書資格を持つことは大きなことです。党区議団は「学校図書館には司書資格者の配置を基本に

港区スポーツ少年団から

全会一致採択!!

港区スポーツ少年団から三千五百七十一名の署名を添えて「スポーツ施設の拡充・整備に関する請願」が提出され、全会一致で採択されました。

請願は、これまで子どもたちの野球やサッカーに利用されていた浜松町運動広場が、国際興業所有の芝公園用地との交換によって使用できなくなったことから、スポーツ施設の拡充・整備に関する抜本的な対策を講じるよう求めた内容です。

今回の土地交換は、運動広場の代替措置や利用者団体の意見も聞かないまま一方的に決定。その結果、少年野球団体などは今年度の

の試合や練習にも支障が出る状況になっていきます。教育委員会は、当面の対策として、東京都と交渉し芝公園野球場を九日間、青山野球場を一日、優先確保しているものの春の大会の日程だけで、練習場の確保には至っていません。

区は二〇〇三年以降の運動施設の整備計画は、芝浦汚水処理場上部を利用した運動場整備計画があるものの見通しもたつていません。今年度から学校五日制が実施されることにより、ますます地域での活動やスポーツ活動が果たす役割は大きくなります。党区議団は質問で、区の「基本計画」についても学校五日制導入に合わせた見直しを行なうよう求めました。

学省の蔵書基準に満たない八小学校、八中学校に、最低でも蔵書基準を満たす予算をつけること。蔵書充実の予算を国に要求することを求めました。教育長は「蔵書の充実・拡大に一層努めていく」と答えました。



「特養ホームに何年待っても入れない」「介護保険の減免を充実してほしい」「保育園に入れない」「商店や中小企業への支援を」「学校に冷房を」——区民の切実な願いを実現する力は港区には十分あります。党区議団は「森ビルなどの開発に莫大な税金を使うのではなく、区民の税金は区民のために使うべきだ」と要求しました。

区民の税金は区民のために 港区の財政力はトップクラス

港区の毎年の収支状況(黒字)

92年度	27億7千万円
93年度	24億8千万円
94年度	21億4千万円
95年度	17億8千万円
96年度	22億8千万円
97年度	31億4千万円
98年度	24億2千万円
99年度	72億3千万円

(百万円以下は切り捨て)

基金残高(積立金) **610億7千万円** (3月31日現在)

森ビルなどの再開発の補助金は予定も含め **213億円**